

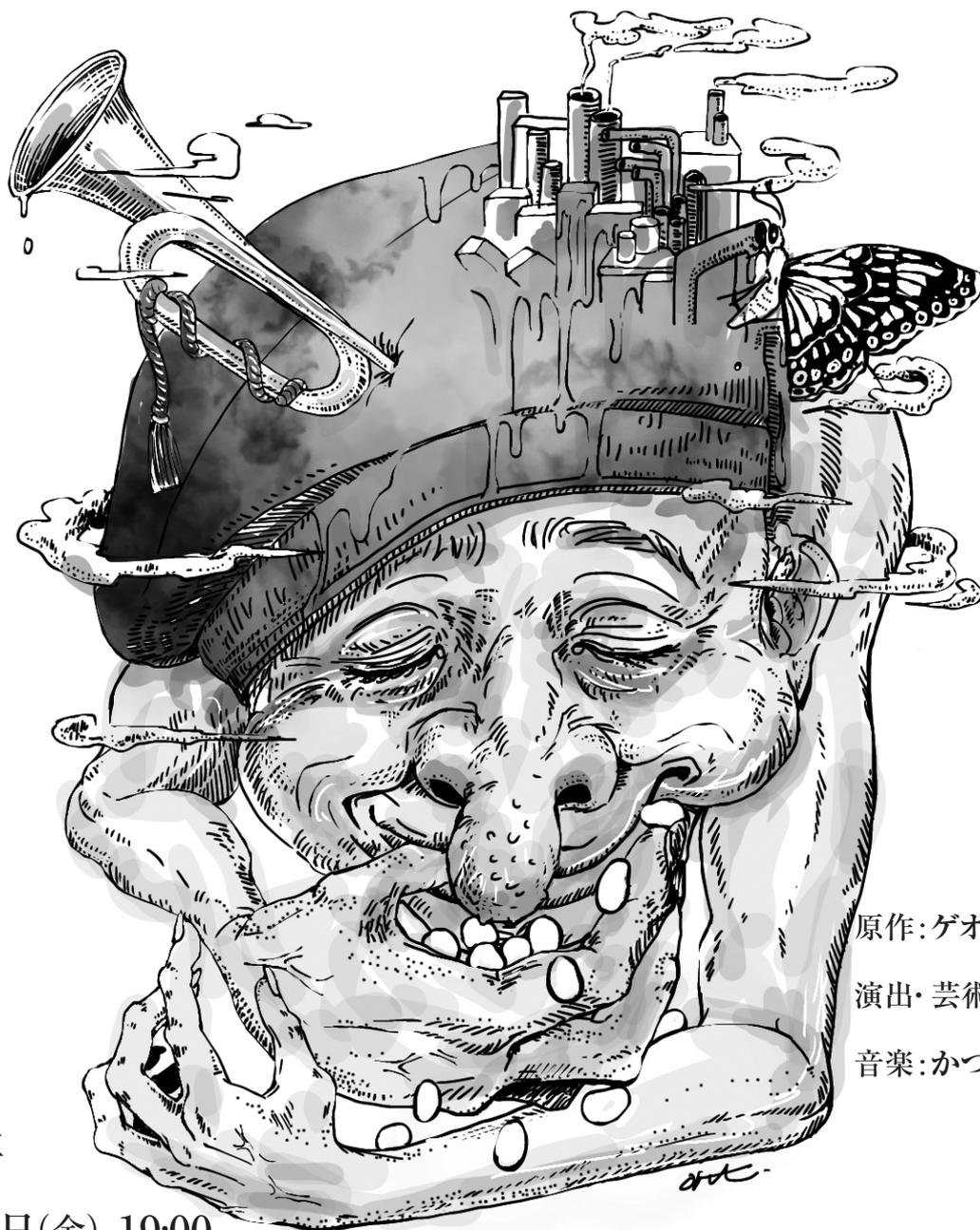
KSKQ

イマージュ

2024年5月

ウイング再演大博覧會2024参加 態変第78回公演

ヴォイツェク Woyzeck



原作:ゲオルク・ビュヒナー

演出・芸術監督:金満里

音楽:かつふじたまこ

2024年

6月7日(金) 19:00

6月8日(土) 13:00/18:00

6月9日(日) 13:00

ウイングフィールド

チケット絶賛発売中

イラスト:OKA

1991年9月3日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・5・6・8の日)発行

ヴオイツェク哀歌 — 応援歌

頭上に見える、小高い丘にそびえる兵舎

男―ヴオイツェクは、閑散と冷え切った土の上で、貧相な体を、身悶えさせながらもんどり打って
まるで、擬人化された兵舎から、呪文をかけられるように、うわ言をプカプカ吐く

よってたかつて、お偉い奴らは、俺をバカにし、やっちまえと小耳に囁く

冗談じゃない、あんたらの好きなようには、いかないぜ

吐くように、言うだけが、精一杯だった

そこが、男―ヴオイツェクには、別天地だった

あそこに、近くもなく、遠くもなく

離れず、恨みを込め

身悶えもんどり打って、うわ言をプカプカ吐く、だけでよかった

女―マリーは、自分の身を勝手に、内側から、突き破り

襲ってくる、兵隊たちに、囲まれ育つしかなかった

女―マリーは、芯まで食い破られせない、守り、を身につける

身ごもらされた、嬰兒を、愛だのへったくれを並べられても

誤魔化されず、自分で自分の股ぐらからに、むんずと嬰兒を掴み、引きずり降ろす

誰が、誹^{そし}って石を投げつけようが、そんなことは知ったこっちゃない

最低の、自分の芯の領域に、正直になろうとする

それじゃ、産まれた子、は、どうする?!

一番に取り残された、独りぼっちで、世界が終わるのか?!

地べたを這いずるようにして、生きる、暗闇に、光があたる

態変のヴォイツェク

これは何かある！と直感が働き2000年のアイホールへ観に行った、ジョゼフ・ナジの「ヴォイツェク」。

まるで意味を介在させない、緩慢な身体の運びで舞台上、出ては消え同じ円の描きを繰り返す表現者の身体。身体も舞台美術も殺風景な灰色の世界があるばかり。息のつまるような徹底的に暗く押し殺した重圧感だが、不思議に軽いのだ。いつかやりたい！態変の身体でこそ、これはやると面白いゾ。と直感した。そして13年後、いよいよ演ろうと、原作をとりよせると、これが、予想もしていなかった悲惨な展開の物語ではないか！

これは、2013年に態変が一回目の『ヴォイツェク』公演をおこなったときの金満里の文から抜粋しました。どんな物語かはここでは書きません（劇場で目撃してください！）。

キーワードだけバラ撒いておきます。「兵士」「ド貧困」「人体実験」「幻聴」「不倫」「ボコる」……

『ヴォイツェク』は1835年頃にドイツで書かれた未完の戯曲です。どんな時代かという隣国でフランス革命があつて、ドイツでもやつたれ！と若者が盛り上がっていたようです。作者のビュヒナーは医学研究

をやりつつ革命運動と文学創作もやっていたフランスに亡命する羽目になり1837年に23歳の若さで病死しました。でも彼の文学はインパクトが凄くて「ビュヒナー賞」は「ゲーテ賞」よりも貰ってテンションの上がる文学賞らしい。

で、『ヴォイツェク』は、未完の遺稿で、なんと目のみたのが作者の死後40年。化学処理でやっと解読できたという、なんだか執念じみた話がちょっとソクソクします。30場面の断片ですが、場面配列も謎のまま。でもその中身は「現代不条理演劇のルーツ」と言われるような破壊力でイメージを喚起してきます。だからこそ様々な演劇人を魅了し、現代的な解釈で盛んに上演されています。台詞芝居だけでなくオペラ、ミュージカル、はては無言のコンテンポラリーダンスでも。

2013年の態変『ヴォイツェク』はいつものユニタードの上に役柄を表わすミニマルな衣裳を付けて抽象身体表現でこの戯曲の筋を追っていく、いわば手堅い演出で、その頃必死に追究していた《抽象身体による感情表現》の到達点でありました。

2016年の再演を造り込んでいたさなかに、あの7・26相模原施設障害者大虐殺が起こってしまった。あんな全てを奈落の底に引き込むような闇の不条理に私たちはどう立ち向かっていったらよいのでしょうか。再演は破壊の底からの創造でしか成り立たない。顔を真っ白に塗り橋の下にうごめく白装束の傷痍軍人の群れという造形に載せて解体的身体表現に魂を込めてみました。

2024年。ガザを襲う理不尽に對し子どもを殺すな、今すぐ停戦、と声を絞っても届かぬ自分たちの無力に打ち萎れるのですが、表現は、私たちに諦めることを禁じます。兵士の、つまりどちらかという男の物語だった『ヴォイツェク』を女と子どもの側からめぐりなおしたらどうなるかという格闘をやっています。優生思想の最悪の現れである戦争に對抗しうる回路がそこにあるのではないかと思うからです。それを6月に目撃してくださるようお願いいたします。

今回の会場であるウイングフィールドについて少し述べておきます。大阪・心斎橋の繁華街の雑居ビルの6階に1992年にオープンした濃密な老舗小劇場。「特に闇をよく魅せられる劇場だと思つ」とはある演劇人の語るこの劇場の魅力です。「雑居ビル」「闇」というキーワードから「秘密基地」だの「悪だくみのアジト」だの臭いを嗅ぎつけてください。昨今の障碍者に優しい合理的配慮には逆行するかもしれませんが、面白い場所にはこじ開けてでも潜入してやる！という冒険心を車いすユーザーには少々強いことになる可能性があります。我々も可能な限りは頑張つて対応しますが、注意事項をお読みの上でご協力をお願いします。本当に面白いものは、ちょっとヤバい場所にある。関西の小劇場界で上演された名作をブラッシュアップして再演する名物企画「ウイング再演大博覧會」が態変をご指名くださり、その心意気に呼応して、気合を入れて挑みます！

文責…仙城真

態変パフォーマーマー座談会

「ヴォイツェク」は人と人との分断を問題提起してくれる

小泉 態変にとって再々演となります「ヴォイツェク」。ストーリーはなんか救いが無い展開だけど、キャラクターが本当に個性的で面白い。抽象身体表現をやっている態変だから、こんな、それぞれに名前がついて性格つけられている役を演じるのは珍しいよね。まずは、その、それぞれのキャラクターについて、話してみたいと思います。



下村 まず学者軍医から。こいつの実験動物にされる僕から言わせてもらおうと「自分の事しか考えてないクソ野郎」。何考えてるかわからない。

池田 演じる側としても「自分勝手」やな。自分の研究成果のことにしか興味がなくて、実験の結果被験者がどうなるかという事は何とも思っていない。

井尻 研究に没頭し、感情のない人間。

池田 ヴォイツェクは貧しくて、心に余裕がない。

小泉 エンドウ豆しか食わせなかったらどうなるの？

下村 貧しくて心に余裕がない、いくら作られて子供まで作っちゃった、したたか者。

池田 幻覚や幻聴が出てきたり、動物みたいになったりするらしいけど。

小泉 したたかだけやなく、ヴォイツェクは良い人やん！ 大尉のセリフで「ヴォイツェク、やっぱお前は善人だ！」っていうのがあるけど、そのままやな。

下村 ヤバいのだけは分かる。学者軍医は、ヴォイツェクの人格には全く興味がない。自分の出世や名声だけを考えて、**狂氣的になつていく学者軍医の気持ち悪い恐怖**を舞台で見るのが僕も楽しみ。やられる方とし

井尻 その大尉を演る私から見ても、**ヴォイツェクは、純真なあかんだれ**。純真さで、浮気したマリーを殺し自分だけのものにしたかったんやと。

下村 マリーは、ヴォイツェクのことどう思ってるんやろうか。

渡辺 マリーを演じる私の解釈では、自分の好きなように生きてる。ヴォイツェクの事は信用して

けど、マリーの本音としては「誰でもいい」かなあ。

池田 誰でもいいんや！ ヴォイツェクかわいそうやな…。

下村 ひたすら我慢しているヴォイツェクを作り込んでいこうと思う。社会に対して、人に対して。でも一人になったらムカついてて…。鼓手長とマリーの不倫の事を知ってしまったって「でも我慢しよう」と思った。それほど自虐的。けど、鼓手長にポコポコにされて、日常の我慢の皮が剥がれて、プツンと壊れてしまった。

小泉 気弱で、ささやかな家庭を大事にしているヴォイツェクが、豹変する。それをセリフ使わへん態変身体だけで表現する、主役ヴォイツェクを再演3回めにして今回も下村さんが抜擢され、また違った面を見せてくれるぞ！

渡辺 ヴォイツェクは、働いて。働

きづめで、やってられてる。でも、マリーは一人で子どもを不安持ちながら育てていて、だんだんヴォイツェクの事はどうでもよくなって、不倫をしちゃう。

下村 あるいみ、まともな女やな。

池田 下村さん、浮気されて、そんなこというてええんかいな！

（皆、笑）

渡辺 マリーは別にヴォイツェクに「途じゃない」。

井尻 そう来ると、マリーは小悪魔やな、まったく！

小泉 タフですね。苦境の中でやうと三人だけの温かい家庭を作って、そこにまた別の素敵な人が来たら好きになっちゃう。

渡辺 ヴォイツェクが家にいないのが悪い。マリーには、不安とか、ヴォイツェクがいない時の気持ちがあつて。

下村 不倫相手の鼓手長はどう思ってるんやろ？

池田 鼓手長はなんも考えてへん、「すべての女は俺が好き」くらいで。頭空っぽやねん。マリーが既婚で分かっていて、やっている。

下村 戦争から帰って壊れてるねんな。暴力にも、性欲にも、全く躊躇が無い。ためらいなく人を殴るし、人の奥さんを、平気で盗ってしまう。なんの罪悪感のブレーキもなくて。自分が壊れてる自覚もないし、誰からも指摘されへん。鼓手長は、性欲とバ

イオレンスの人。

小泉 ここに出てくる人たちは皆んな軍人で、皆んな本当にいかれてるな。大尉もスゴい暇人。ヴォイ

ツェクにお金払って髭剃りをやらせているんだけど、大尉は髭剃り手が欲しいんやな。大尉は髭剃っている間、ずっとヴォイツェクに話して時間潰してる。

池田 たまらんな。

井尻 大尉は文句言いのエロ爺。部下のヴォイツェクを見下して、反論できないヴォイツェク相手に憂さ晴らしをしている。「お前は善人だ」というのは、バカにしているヴォイツェクに対して、大尉自身を許す言葉やと思う。

下村 更に女性のストッキングの話とかして。「風でも吹いて、白いストッキング履いた足が見えると、俺も生身の人間やからたまらん」みたいな。この当時は、足首まで隠れるようなスカート履いてた時代やから、この発言はすごくやらしいな。

渡辺 下村さん、そういうの好きちゃうん。（皆、笑）

小泉 さて、ある程度キャラクター像を話したところで、この『ヴォイツェク』という作品は1821年に起こった実際の事件が基になっていて、ドイツでは裁判で精神鑑定を導入した最初の頃だそう。二年間、二転三転の公判のあと、ヴォイツェクは死刑になった。相当に物議を醸した事件だったらしい。そこでちょっと思うんだけど、「精神鑑定の結果、責任能力がない」って、つまり、極端な話し、障碍者は責任を取らなくていい、という事だけど、どう思う？

下村 つまり、池田さんが人を殺しても、罪に問われない、みた



いな。

池田 「障害者はなにをやっても許される」っていうことやとしたら、逆に障害者の人権を無視していると言えらんちゃうかな。

渡辺 責任を取るとか取らないの話ではないと思う。例えば、その人が罪を犯したとしても、私は「その人が敵」みたいに思いたくなくて、たとえ殺人であつても、それをするしかない事態だったのであつて、自分が追い詰められていて、生活ができてなかった、っていうのもあるやろうし……。

小泉 それは、極端な話し、生活に困窮してたら犯罪を犯すこともあるだろう、っていうこと？

渡辺 あるだろうと思う。

下村 それが、障害者やつたら許されるっていうこと？

渡辺 今でさえ、自分をコントロールできない人はいらる。やっぱり、本人は「そんなことしたくない」と思っているんだと思うんですよ。でも、どうしても自分が見えてなかったり、自分の中にもう一人の自分がいて、それをコントロール出来なかつたり……。

井尻 人の心の中は見えへんし難しいと思う。もし私が殺人を犯し、精神鑑定を受けて上手く精神異常を演じ、無罪になつたとし

たら、世間はやっぱり！と納得するかもしれないね。

下村 7/26相模原障害者虐殺事件の年に、ある障害者がインタビューを受けて、その内容が「障害者が障害者を殺した場合、あなたはどう思いますか？」というもののやねん。でも、それは障害者やから殺した、殺されたじゃなくて、単に「あつたらアカンこと」だと思ふねん。精神鑑定で責任能力がないという事では、その精神鑑定の物差しで測ろうとしてるのが健常者の物差しだと思ふ。そういう物差しだから今の世の中、益々こういう事件が増えると思う。その反面、健常者の目からしたら、「障害者は危ない」「責任取れない」という見方が強くなつていくと思う。で、こいつら障害者は、自分たちより劣つてると考えていく。

池田 そうやねん。この精神鑑定で障害者の責任能力をはかるっていうのは、優生思想のはしりなんやと思うわ。分断策やと思う。

下村 『ヴォイツェク』はその視点、つまり人と人との分断を問題提起してくれてるねん。だから、この作品は、今でもあちこちで上演されるんじゃないかと思う。

小泉 それを考えるとヴォイツェクは態度にメチャクチャ合つてる作品やな、と思う。

これから、それぞれがキャラクターや、自分たち自身を持つ狂気を捉えて、生き活きと物語を紡いでいくような、良い作品を創つていきましょ！

公演アフタートーク ゲスト紹介

『ヴォイツェク Woyzeck』では、全ての公演回後に、ゲストと金満里のトークをお聞きいただけます。多彩なゲストをお迎えして、観劇後の未知の世界へ言葉が紡がれていくことに乞うご期待！！



★1

6月7日(金) 19:00

シモーヌ深雪 / SIMONE FUKAYUKI

(シャンソン歌手 / ドラッグクイーン)

※ドラッグクイーン＝過剰なメイクと奇抜なコスチュームを身に纏い、主にクラブなどでユニークなショーをおこなうパフォーマーのこと。

シモーヌさんは1980年代(態変旗揚げとほぼ同時期)から今の活動を開始された先駆者。怪奇と官能、あるいはエロティシズム、グロテスク、ナンセンスをベースに、アヴァンギャルドな味付けのエンターテインメントを展開してこられた。態変芸術の目指す指向性とはビミョーな位置関係になるが、重なる部分が多々あるのは否定できず、いつか会おう人だろうなと思っていました。どうかクロス出来るか楽しみです。

★2

6月8日(土) 13:00

小田香 (映画監督)

制作されるジャンルとしてはドキュメンタリー映像であるが、代表作『セノーテ』(古代マヤ文明の頃の人々と密接にかかわっていた現代のメキシコの地下の泉を撮った)など、態変の抽象身体に通じる自由なイマジネーションを誘発する作風。映画・映像を制作するプロセスの中で「我々の人間性とはどういうもので、それがどこに向かっているのか」を探求しているという小田香さん。最下層の人間の極限状態を描く『ヴォイツェク Woyzeck』の公演後、どんなお話が表れてくるか見逃せません。

★3

6月8日(土) 18:00

姜信子 (游文の徒)

歌や声を手掛かりに旅し、物語を紡いできた作家。近代国家によって消されていった、地面から湧き出てくるような民衆の説話、口承、物語・声を掘り起こし、現代の人々へと開く著書を多く発表されている。2023年9月に関東大震災百年を迎えたことを契機に、「鎮魂」と「予祝」の「百年芸能祭」を運営する関西実行委員としても、精力的にライブなどを企画、「みなで歌い語り踊って」日本各地で「閉塞した世界に」風穴を開ける活動をされている。観劇後にどのように新たな物語が生み出されるか期待が膨らみます。

★4

6月9日(日) 13:00

くるみざわしん (劇作家 / 精神科医)

精神科医療に携わりつつ、精神医療のみならず原発、戦時性暴力、思想統制などのテーマで多産な劇作家であるくるみざわしんは「どちらが患者で治療者なのかかわらない。どちらも患者で治療者である混沌に身を置き、精神医療の不条理に自由とユーモアを注ぎ込む。ここで人間の尊厳を問いかえず」というスタンスで、観る者の精神の底を照射しある種の治療効果にもなるような劇を創っておられる。代表作のひとつ『精神病院つばき荘』で繰り返されていたつづやき「私たちはとてつもなく大きなものに見放され、見捨てられている」を共有する者として出たい作家でした。

大阪文化祭賞を受賞しました

『**態変 40周年記念・第77回公演『私たちはアフリカからやってきた』**』が、**2023年度大阪文化祭賞（第2部門：現代演劇・大衆芸能）**を受賞しました

態変の選考理由：『私たちはアフリカからやってきた』には、
「スケール感ある舞台は、今なお生命の収奪が続くこの世界に対する鋭い問いかけともなっていた。
障がい者の「障がい」そのものを表現力に転じ、未踏の美を生み出す態変は、大阪の表現者集団として、
国内のみならず海外にも大きな影響を与えてきた。その粘り強い歩みを改めて称えたい」が読み上げられました。

そして、3/22(金)に大阪文化祭賞贈呈式に、態変も出席しました。

金満里が表彰状などを受け取り、

「『私たちはアフリカからやってきた』では、楽しい部分と、地獄のような部分の両方を描いた。
特にきつい部分へはガザへのイスラエル軍事侵略を彷彿とさせ、多くの観客の方から思いを寄せていただき、
しっかりと受け取っていただけた。」と挨拶しました。

改めて、態変を支えてくださる皆様に御礼申し上げます。態変一同、これからの励みにして参ります。



大阪文化祭賞

メタモル企画のお知らせ◆態変の拠点、メタモルホールにて、ライブを開催します！



ブルースシティライブ〈16〉 永山愛樹・良元優作

7月15日(月祝) 15:00～ メタモルホール

2012年から始まり、今回で16回目の人気企画。豪華メンバーでお送りします。
ご注目ください(主催：態変応援企画)

「異文化の交差点・イマージュ」 88号 2024年4月刊行 特集「ガザ」



「声になりたい」
パレスチナとつながる学生チーム「SHIRORU」・齋藤ゆずか
「映画を通してパレスチナに出会う」
映画監督・戸田ひかる
「パレスチナと私たちを接続させるもの」
―植民地主義の暴力に抗するものとして― ―車秀子
平和の壊し方
(パレスチナと平和がどのように壊されてきたか)―仙城真
〈連載〉大野慶人の言葉／西成彦 ことばとからだ／「イ
ラスト&エッセイ」伊祖から届く風／久々の「酒と食いも
んのエッセイ」

◎寄稿

◎岡真理―金満里 往復書簡
パレスチナ問題の第一人者・岡真理さんから今回のガザ
の事態を我々はどう理解すべきかをご教示いただいたこととし
たが今の情勢の中さすがに超多忙で、メールのやり取り
でなら、というかたちで実現した。

◎岡真理―金満里 往復書簡

ホロコーストという底知れぬ被害を受けたユダヤ人が、
ガザではあのような凄まじい加害をおこなうとは、一体ど
うなっているのか。この疑問から、ユダヤの思想・文化の
研究を続けてこられた赤尾光春氏に対談をお願いし、この
捻じれの解明を試みた。

〓巻頭対談〓赤尾光春×金満里 ユダヤの精神性とガザにおける暴虐 ―この捻じれは何処から

今ガザ地区でなされている事態。封鎖して逃げ場を無くして子どもだろが赤子だろが誰かれかまわず攻撃を加え、食糧・医療をはじめ生活基盤にも破壊を進め、イスラエル極右政権はまるでパレスチナ人の皆殺しを企図しているかのようだ。この人道犯罪を国際社会は実質的に黙認してしまっているかのようで引き裂かれる。せめて発信を、むこととした。

2024年度賛助会員募集!!

みなさん、賛助会員になってください!

このダイレクトメールを読んでくださってありがとうございます。御座います。
態変の創り出すアートシーンに、ご注目と共鳴をいただきましたらとても幸いです。

その態変活動は、
一階稽古場と二階事務室と多目的室の一つの場があって、生み出されています。

世界に類を見ない、態変
身障者自身が、最も重度の身障の身体を表現として芸術に昇華させる、
という視点で既存のダンスや身体表現とは全く違った発想の元、
独自の着眼で身体表現の方法を編み出し、
探求しつづけ40年間にも及ぶ芸術活動を継続させて来ました。
それは最前衛で追求して来たからこそその結果です。

私たちは、最重度の身障者だからこそ創り出せる芸術、
ということを<障碍>の枠に括らず、普遍的芸術の中でこそ態変芸術を打ち出し、
普遍的芸術自体の領域をこじ開け広げないといけないと考えています。

しかしこの<場>があって創り出せる態変芸術が、
私たち身障者だけの単独で全てを自足させるには力及ばずです。
そのところに対し、一般市民のみなさんへ、
この態変芸術をもっと育て伸ばしていく、市民パワーとして、
態変賛助会員になっていただきたく存じます。

態変賛助会員制度（2024年度）会員募集

- 年会費● 個人会員 ……一口5,000円
法人会員 ……一口20,000円

- 入会方法● (郵便振替) 同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変
(PayPal) メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用頂けます。
態変HP → 日本語 TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。



会員特典

- ・会員証発行
- ・態変公演ダイジェスト映像DVD進呈(年1回)
- ・態変公演チケット500円引き

1991年9月3日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・5・6・8の日)発行

ウイング再演大博覧会2024参加
態変第78回公演

ヴォイツェク Woyzeck

演出・芸術監督：金満里
原作：ゲオルク・ビュヒナー 音楽：かつふじたまこ

2024年 **6月7日(金) 19:00 ★1**
6月8日(土) 13:00 ★2
18:00 ★3
6月9日(日) 13:00 ★4

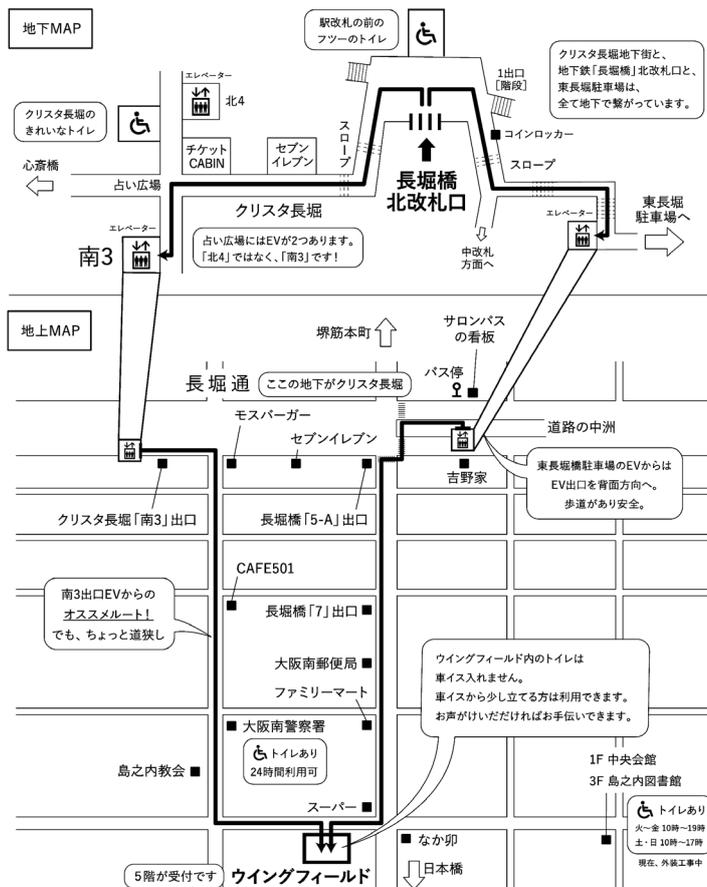
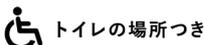
毎回金満里とゲストによるアフタートークがあります！

ゲスト= ★1 シモーヌ深雪 (シャンソン歌手 / ドラッグクイーン)
★2 小田香 (映画監督)
★3 姜信子 (游文の徒)
★4 くるみざわしん (劇作家 / 精神科医)
(→詳しくはP5へ)

車イスでのウイングフィールドへの道

～地下鉄「長堀橋」から～

所要時間：15分～20分、慣れると10分も可！



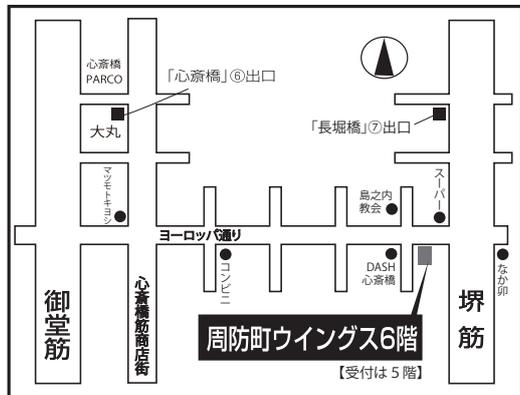
会場

ウイングフィールド

大阪メトロ 堺筋線「長堀橋」駅から徒歩3分、
御堂筋線「心斎橋」駅から徒歩5分

★ウイングス5Fが受付となっております。
受付を済ませてから6Fにお越しください。
(受付開始・開場ともに開演の30分前)

詳しいアクセス方法→



大阪市中央区東心斎橋 2-1-27 周防町ウイングス 6F

◎車イスでのご来場について

会場のウイングフィールドは、条件の厳しい小劇場のため、色々と制約がございます。誠に申し訳ございません。なお、本劇場のみに限らず、なるべく様々なご事情のある方々に観ていただけるよう、私どもとしても可能な限り尽力してまいります。

- ・車イスのままご観覧いただける席は**毎回2席限定**となります。車イス席のご予約は態変事務所でのみとさせていただきます。
- ・車イスから一般席へ移乗の可能な方は、ご協力いただければ幸いです。ただし、一般席もあまり条件の良い座席ではないことをご承知ください。
- ・エレベーターが非常に小さく幅70cm・長さ110cmを超える車イスはご入場いただけません。
- ・通常は5階で受付、階段で6階のホールへ、となっていますが、車イスでのご来場のお客様は6階へ直行していただけます。(スタッフがご案内します)
- ・車イスでご入場の方は開演40分前にご来場ください。
- ・開演時刻に遅れて来られた車イスの入場は対応困難です。

チケット (日時指定・全席自由)

【前売り】一般 4,000円 障害者 / 介助者 各 3,500円
22歳以下 2,500円
【当日】一律 4,500円

※態変賛助会員証提示で受付にて500円払戻
※各種割引は当日受付にて要証明書提示
※障害者は手帳をお持ちの方。介助者は同伴の1名まで

〈ご予約〉

●当日精算ウェブ予約
<http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/ticket.html>
※ au 携帯電話で ezweb というメールアドレスをお使いの方へ。システムの仕様で予約申込が届きません。画面の指示に従い、メールでお申し込みを試みてください。

●態変事務所 ☎ 06-6320-0344
(留守番電話の場合必ずお名前・お電話番号をお残しください)

●Peatix
<https://taihenwoyzeck.peatix.com/>
当日受付で電子チケットまたは印刷したチケットをご提示ください



表紙イラスト：OKA

編集人 (返送先): イマージュ 金満里 小泉ゆうすけ 仙城真 佐藤菜月 レイアウト: 中村あずさ

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-15-15 tel/fax 06-6320-0344 e-mail 〓 taihen.japan@gmail.com 定価 50円

発行人: 関西障害者定期刊行物協会 / 大阪市天王寺区真田町 2-2 東興ビル 4F